

質問 健康診断の超音波検査で腎臓に腫瘍があると指摘され、精密検査で腎がんと診断されました。担当医からは手術を提案されています。腎がんの治療はこのようなものがありますか。



古川 順也
徳島大学病院
泌尿器科教授

腎がんの治療

回答 腎臓はそら豆のような形をした握りこぶし程度の大きさの臓器で、左右に一つづつあり、血液をろ過することで老廃物や水分を調整して尿を産生します。尿は腎盂にたまり、尿管、膀胱へと運ばれます。

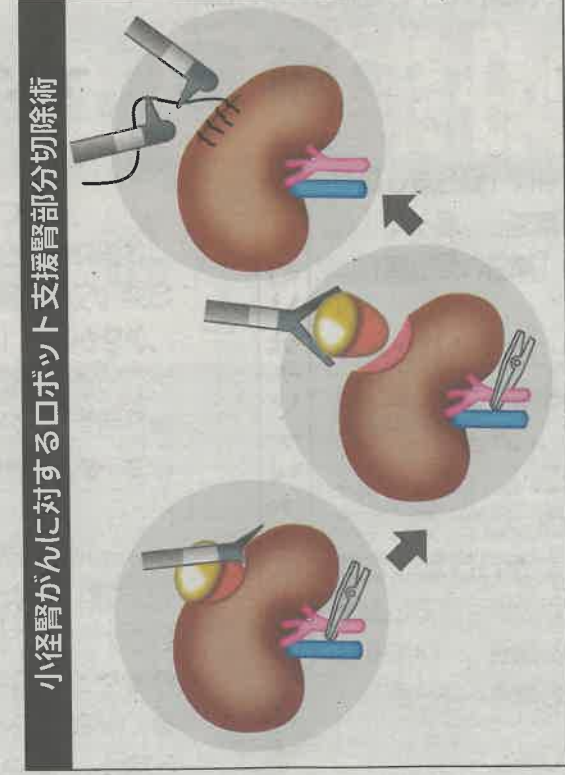
尿管と呼ばれる管から発生した腎がん(腎細胞がん)と腎盂から発生した腎盂がんは区別され、治療法が異なります。腎がんは女性より男性に2・3倍多く発症し、70歳代までは年齢が高くなるにつれて増え、年々増加傾向にあります。

発症リスクとして高血圧、肥満、喫煙などの生活習慣が挙げられますが、血液透析治療を長期間受けている患者も発症リスクが上がるといわれています。早期の腎がんでは、症状がないことが

ほとんどです。今回のように、健康診断や他の疾患で通院中にエコーやCT検査で偶然発見される早期がんの割合が増加しています。

一方、進行した大きな腎がんでは血尿、腰痛、発熱や体重減少などが認められることもあり、肺、骨、肝臓などに転移した状態で発見される場合もあります。

治療法は、転移がない状態であれば手術による



小腎臓がんに対するロボット支援腎部分切除術



がん何でもクイズ
大腸がん検診の適切な受診のタイミングはいつですか。
①症状がある時②1年に1回③5年に1回
行こうよ！がん検診

根治が期待できます。がんの大きさが7センチまでであれば、がんと周囲の余白をつけた組織のみを切除する腎臓の部分切除術を行います。傷が小さく身体への負担も軽減され、がんの根治性を保ちながら腎臓の機能が温存できる方法です。

進行程度で方針異なる

われわれは手術支援ロボット「ダヴィンチ」、あるいは「HiROTORI」を用いた精度の高い手術治療を提供しています。がんが7センチより大きく腎臓の周囲や大血管へ進展している場合は腎臓を全摘する根治的腎摘除術を行います。その場合、残った腎臓の機能が悪い場合は、慢性腎臓病の発症リスクが高くなるといわれています。

転移のある腎がんの治療は現在、がんの増殖に関連する特定の物質のみ作用する分子標的薬と、がんが自身の免疫から逃避するのを抑え、がんを攻撃する免疫能を高める免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせた治療が中心となっています。

腎がんの手術、薬物治療は進歩が目覚ましく、がんの進行の程度により治療方針が異なります。治療経験の豊富な専門医を受診し、病状に応じた最適な治療方法を選択することが重要です。

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。
QRコード